



もり 森林の風

特定非営利活動法人
森林の風
会長 蒲田 博
2010.12.20.発行

第6号

だ よ り

NTN企業の森

「こもれびの森」活動開始

多度山愛宕地区にある4.5haの私有林において、サクラ・モミジ等の植樹、間伐、下草刈り、作業歩道整備、森林環境教育等を行う活動です。11月4日に三重県・桑名市・NTNの森林保全協定調印式、11月16日に現地での記念植樹を行いました。

「森林の風」は8月にNTNと作業受託契約を締結し、記念植樹に向けて、イベント広場、植樹場所、それを結ぶ歩道の整備を行ってきました。

今後は間伐をした場所を中心に植栽し、また展望台を整備して憩の森へと変化させていく予定です。



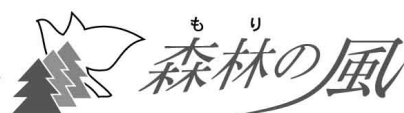
みえぎん

「まなびの森」一周年記念



風もなくうす曇と、絶好のお天気で迎えた11月14日、菟野町の『みえぎんまなびの森』にて植栽イベントが開催されました。まなびの森オープニングイベントから約1年が過ぎ、整備された大地に根を張る木々が竹ポットに入れられどんどん植栽されていきます。来賓の三重銀行頭取や菟野町長他スタッフで40名ほど、一般参加者が50名ほどの一大イベントとなりました。5年先の姿を早く見たいものです。でもそんなに早く年をとりたくない気もしますが……

森林施業 NPO法人



連絡先／〒512-0933 三重県四日市市三滝台4丁目15-7 TEL059-321-7719 携帯電話090-9663-4088
<http://www.morinokaze.info> *詳しくは、ホームページまたは上記まで問合せください。

SIDE1 . 植物図鑑

ナンキンハゼ

こんな名前の木を聞いたことがありますか？

中国原産の木ですが、街路樹や公園樹としてこのあたりでもたくさん植えられています。そこそこの大木に生長します。また「この木の名前って何ですか？」と質問されることがけっこう多い木です。紅葉のグラデーションがなかなかの美しさです。緑色から黄色になって赤く染まって散る。

(さんみたいですね) 1 枚の葉っぱの中でも緑、黄、赤と混じている部分があります。



機関紙が発行されるころには葉を落として白い実をいっぱいつけているころだと思います。昼間に見ると LED が木に巻きつけてあるように見えます。桑名の星川の東から多度へ抜ける道に街路樹として植えられています。ただ山の活動中には見られないでしょう。4 枚の葉はすべて同じ木から拝借しました。白い4つの米みたいなのが種です。

【裏川】

知識 Knowledge 樹木の生長と水

【岡島】

「森林」四手井綱英著を読みました。森林の風会員を始め、皆さんにも知っていただきたく、以下、要点をまとめ、報告します。

[1] 樹木の生長と水

植物の生長に必ず水が必要であることは、田や畑の例を挙げるまでも無く皆様、良くご存知の通りです。従って樹木の生長に水が不可欠ということは、保水力のある土壤が形成される必要があるということです。

保水力のある土壤とは、年間相当量の落ち葉が地面に供給されて、微生物などにより分解されて、土と混じり、腐葉土化して、表土の粒子は隙間の多い個粒状となり、雨水が浸透し易くなり、地下水となる量が多い土壤のことです。

このような土壤では、よほどの豪雨でない限り土砂の流出がない為に、保水力が持続できるので、樹木の生長も良い。

[2] 同じ降水量に対する有林地と無林地の流水量の比較

- 1) 蒸散量……………有林地 > 無林地
- 2) 年間流出量……………有林地 < 無林地
- 3) 降雨後の増水速度……………有林地 < 無林地
- 4) 降雨地の土砂流出量……………有林地 < 無林地

[3] 有林地に於ける降雨の蒸散経路

1) 樹冠層で二分される

枝葉の隙間から直接地表へ落ちる

枝葉に付着する

イ) そのまま蒸散する

ロ) 枝葉から地表へ滴下する

ハ) 枝葉から幹を伝って地表へ到達する (樹幹流下水)

2) 地表で二分される

地表を流下する

* 流れながら一部は蒸散する

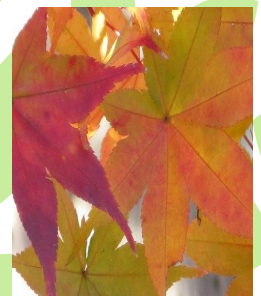
地下に浸透する

イ) 土の粒子の小さな隙間に溜まって土層内に保持される

* 根から吸収されて木の成長に使われた後、葉より蒸散する

ロ) 土の粒子の大きな隙間を通して地下水となり、徐々に川へ流出する

* 土層内の水が不足した場合は地下水より、根が吸収して木の成長に使われた後、葉より蒸散する



[注] 無林地では地表に直接落ちた雨水の大部分が 2) の現象をたどり、一時期に大量の流出が起きるため、土砂の流出も起きる。

報告 Report はるばる運ばれてくるもの

【清水】

三大河川、三大祭り、三大美女……。『三大』とつくものはいろいろありますが、さてみなさん、

「三大美港」を述べよ

と言われて三つあげられるでしょうか。

神戸港、長崎港、あとひとつは……。？ 横浜港は該当しません。

静岡県の清水港です。晴れた日は三保の松原に富士山の借景が見事だからだそうです。

もし、あいにくのお天気で富士山が見えなかったとしても、45分の清水港クルーズはかなりエキサイティングです。

ポーキサイトの赤い山、高さ100m 近くあるガントリークレーン、黒煙をはく北朝鮮籍の船、そこから下ろされる大量のコンテナ(国交ないはずじゃ?!)、天然ガスや石油、食用油をタンクに移す給油施設。そして……。その横の山は？

右手で舵を操り左手でマイクを握って案内してくれるワンマン船長が教えてくれます。

「あれは木製チップだよ、富士辺りへ運ばれる」

日本のパルプ・製紙業と言えば北海道の苫小牧市と静岡の富士市で、その地の豊富な木を活用した産業として発達してきました。けれどもいまや、木製チップの7割以上がオーストラリアやアメリカ、チリなどからの輸入に頼っています。日本は国土の70%近くが森林で、間伐を待つ森林も多いのですが……。

企業が海外で木を植えれば京都議定書の排出権取引に役立ちます。ユーカリなど生長の速い木を植えれば低コストで育成でき、その後伐採した木は日本へやってきます。深く考えなければ「一石二鳥」のように思えます。

食べ物と同じように、使うのならなるべく近くの木がいい、自分の暮らす地域の木についてもっと詳しくなりたい、と思います。



新着情報。 テキスト 3 冊目も完成しました！

『まちのきこり人』にとってのバイブルとなるべく、森林施業のガイドブック 3 冊ができあがりました。

- 1、**「森を測る」と題して調査・測量編**
- 2、**「実践！まちの木こり人」と題して森林施業の技術アップ編**
- 3、**「基礎編！まちの木こり人」水源の森プログラムの改定版**

は発刊済みで、すでに手にとっていただいている方も大勢いらっしゃるでしょう。今回、

の登場です。あちこちの森林塾、プロの林業家の方々に教えていただいたことを忘れないために、「会員の復習、勉強要素」もふんだんに含まれています。森林の風では、この 3 冊を教科書として、さまざまな講座を実施していきます。

関心をお持ちの方はぜひ、事務局までお問い合わせください。



知識 Knowledge 日本人の水資源感覚について

【板垣】

水を大切にする。

水源の森を大切にする。

地球上に存在する水の量は 14 億 km^3 です。その内 97.5% が海水で残り 2.5% のわずかな淡水のほとんどは氷河や地下水で、人間が利用できる水は地球全体のわずか 0.01% にすぎません。利用できる水の分布でも汚染により用途が限られている場合もあり、安全な水を使う事ができない人は世界で 10 億人以上もいると言われています。海外で渇水する地域も増え、水の利用競争が激化すると考えられています。比較的降水量が多く森林率も 70% 近くある日本は、水資源が豊富であると考えられがちです。水問題とは無縁なようですが実際のところ、私たち日本人は世界の多くの水に依存しているのです。

『バーチャルウォーター(仮想水)』という言葉があります。輸入した農畜産物を生産するのに必要な水の量のことです。日本は加リーベースで食料自給率が約 40%、残り 60% を輸入に頼っています。この輸入食料を生産する際に使った水も間接的に日本人が必要としている水ということです。例えばある計算では牛丼 1 杯を作るまでに必要な水は 2000L との試算もあります。

水資源を一番多く使うのは農業でしょう。人口増加や経済成長と共に農業用水の利用量は増えていきます。また気候変動による降水パターンに変化が出たり、地下水の過剰な汲み上げ、塩害などで水不足は拡大しています。生物の存亡がかかっている水がこのようなことでは生物多様性もたまったものではありません。

「水」の適切な使い方に始まって、水源の森を大切に育てていくことを改めて肝に銘じて活動していきたいと思います。



随筆 Essay おおかみキャベツの話

【南条】

最近、えっ！と思う新聞記事を読んだ。どんな植物でも害虫に食われると、その天敵を呼ぶ化学物質を放出するらしいのだが、なかでもキャベツはそれを大げさに騒ぐのだそうだ。

研究者によるとキャベツはいわゆるオオカミ少年のようで、次は、ハチなどがそれにだまされないようどのように対応するのかを調べる、とのことであった。植物すべてがそうした放出行動をするということも初めて知ったが、この、キャベツが大騒ぎするというのは面白いと思う。何か人間臭く、自然界のあらゆるものが生きるための営みをしていることを改めて感じる。地球上の生物の中で我々人間ほど邪悪な生き物はいないと常々思っているが、またその人間の手でキャベツがオオカミ少年であることを発見し、その性質を害虫駆除に有効利用する研究を進めている。考えてみると人間はその知恵と力で自然を壊し、またその知恵と力で自然を守り再生しようとする繰り返しのような気がする。



巨木の下に立つと、何とも言えぬ荘厳な気持ちになる。何かの本で、木は気に通ずると読んだことがあるが、キャベツでさえ思いを放出しているのだから、何十年何百年と生きた木にはもっと深い思いが在るに違いない。森の中に入ったときはその声に耳を傾けるようにして行きたいと思う。

注意！Attention！ 森林での安全作業

【櫻井】

NPO法人森林の風は、キャッチフレーズに「『安全作業』を優先し、『マナーとルール』を守り、『森林所有者』や『地元森林組合』との協調した活動を進めています。」と掲げています。今回は、このうち「安全作業」について日頃から考えていることを述べてみたいと思います。

当会が設立して、6年目を迎えています。これまでの活動の中で、大きな事故や怪我也も発生しておりません。仕事の始めに「『安全作業』を優先し『マナーとルール』を守る」と毎回、繰り返し確認しています。この結果、会員の安全意識の高揚・維持につながり、無事故が続いているものと思っています。

当会では、会員の条件として労働安全衛生法に基づく安全衛生教育である「チェンソーによる大径木伐木作業」と「刈払機取扱作業」の受講を義務付けています。しかし、受講したからといって、安全な伐木作業が出来るわけでは決してありません。安全な作業が出来る、出来ないは個人の資質が大きく左右するものと感じています。

認識の度合いによる・・・安全作業は解るけど、これくらいなら良いだろうと思う甘い考え。
立場が違う・・・自分だけは大丈夫と思っている、自信過剰。または、他人事と白けている。
口先だけの理解・・・すぐに解ったと言うものの、その作業が出来ない。つるを残せと注意しても、いつも切り過ぎている。など

それぞれの人間が、それぞれに持っている自分というものは非常に頑固なものであり、それを変えようとするのは難しいことです。このため、作業前には毎回、安全作業をしつこく、言い続ける必要があります。

事故を起こしてはならない。

では、なぜ事故を起こしてはならないのか。傷害保険に加入しているから大丈夫、という問題ではありません。一度事故を起こせば、信用・信頼はなくなります。活動依頼もなくなります。当然、会の存在が無くなってしまいます。

緊急雇用などで多くの人々と出会い、作業をするようになり、なお更、安全作業の必要性とその難しさを実感しました。

そこで、私なりの安全の秘訣

森林作業は、基本が大事・・・基本動作の意味を理解し、基本に忠実であること。

基本なくして、応用無し・・・基本が出来なければ、応用も理解できる訳がない。

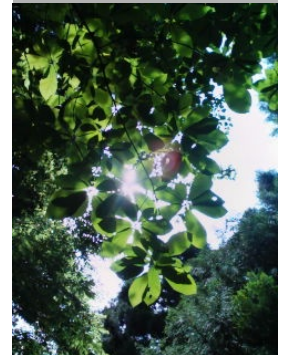
KY、その心は、木を読む・・・重心、枝張り、その周囲などを観察する。

KY、そして、危険を予知する・・・倒れるのをイメージし、危険を察知する。

会員は、様々な経歴を持ち、生きてきた人たちです。しかし、森林への熱い思いは同じであると思っています。今後も会のキャッチフレーズを常に念頭において活動に参加していただくことをお願いします。

1月が往き、
2月が逃げ、
3月が去って・・・

あたたかく、
きらきらと
陽射しもまぶしい
春がやってくるころ・・・



また始まります！

まちのきこり人

育成講座



森の楽しみ方から
チェンソーの
メンテナンスまで！

乞うご期待。

活動報告

御在所山頂での種子採取

2010年10月12日(火) 御在所山頂
 指導者:三重大学名誉教授 武田明正先生
 会員:6名 その他:4名

「御在所岳山頂のカモシカセンター跡地に植樹をする」ためにまず、「御在所山頂にある種子を採取し、実生苗から育てる」ことを目的として、三重大学名誉教授武田先生ご指導のもと種子を採取しました。



採取種子

・アカヤシオ ・シロヤシオ ・

タニウツギ ・リョウブ ・ドウダンツツジ・ベニドウダン ・カマツカ ・サラサドウダン ・サワフタギ ・ウツギ・ミズナラ ・シロモジ

採取後 種子の保管方法 種子の蒔き時期 種子の蒔き方 蒔き床などの指導を受ける。 【小坂】

国定公園内では特に、「勝手に取ってはいけない 持ち込んでいけない」など、厳しいルールがあります。

今回教えていただいた種子の保存方法は、
 毎回活動後に作成する活動報告書にあります。
 森林の風ホームページにリンクしてあります。
 そちらもぜひご覧ください。

多度山再生を目指す森林ボランティア入門講座

2010年10月16、23日(土・日)

桑名市多度山愛宕神社西

会員:櫻井、岡島、大石 受講者:8名

桑名市主催で、多度山を健全にし、緑豊かで美しい森林に再生させることを目標とする「森林ボランティア入門講座」の指導を行いました。今年で3回目となります。



当会作成のテキスト『水源の森プログラム光 土 水風』に基づいて、まず、森林作業を行う上でのマナーとルールをず理解していただきました。次に、健全な森林に再生するための具体的な施業方法も体験していただきました。



毎月第3土曜日に、当研修会の修了者が中心になって多度山の再生に取り組んでいます。 【櫻井】

第1・第3土曜日 矢の峰 / 第1・第3日曜日
 向井 F1 / 第2・第4日曜日 みえぎん まなびの森

編集後記

みなさん今年の紅葉は楽しめましたか？私の仕事場は半分森の中ですが、ここ数年とは様子が違います。マスコミでもドングリの不作が伝えられていますが、大不作ということで自然界の食物連鎖にこれから異常が出てくるでしょう。

クマ君たちもいい迷惑です。クマ君たちが射殺されたりする報道を聞くと人間ほど身勝手な動物はいないとつくづく思ってしまう。たぶん野ネズミやリスたちの小動物も大変だ

【裏川】
 と想像できます。やはり酷暑といつまでも暑い日が続いたことが原因なんでしょうか？それとも春の冷害？

科学技術が発展しても、自然の移ろいをコントロールすることはできません。人間も自然という手のひらの上でちょっと遊ばせてもらっているだけなのですから。私は謙虚さを忘れずに森に入っていこうと思っています。